

# 映画の舞台になった香川県

古くは「二十四の瞳」1954（昭和29）年 公開など、香川県でロケが行われた映画がたくさんあります。  
ふうこうめいび  
 風光明媚な瀬戸内の島々や、穏やかな人々の住む町が舞台です。原作を読んでみましょう。

## 世界の中心で、愛をさけぶ 原作 片山 恭一

ベストセラー小説「世界の中心で、愛をさけぶ」が庵治町を中心にロケが行われ映画化されました。高校生の恋人アキとサク。ふたりは夢島でひと夏の思い出を作る。だが、彼女は、「白血病」という病に冒されていた。日ごとに弱っていくアキ。ふたりはオーストラリア旅行を執行するが……愛とは、人生の美しさとは何か、考えさせられる純愛物語。

製作＝「世界の中心で、愛をさけぶ」製作委員会  
 監督＝行定 勲 配給＝東宝



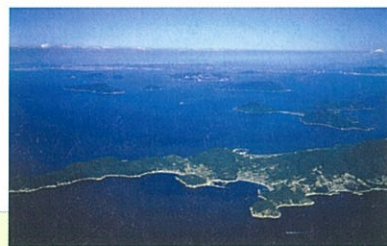
©2004「世界の中心で、愛をさけぶ」製作委員会

## 青春デンデケデケデケ 原作 芦原すなお

原作者は、観音寺市の生まれ。1991（平成3）年「青春デンデケデケデケ」で第105回直木賞を受賞しました。  
 <あらすじ> 観音寺第一高校に入学した藤原竹良（ちっくん）。ベンチャーズの「パイプライン」に打たれてロックに目覚める。高校3年間を仲間とともにバンド活動に熱中。讃岐弁が飛び交う痛快な会話を楽しみながら読むことができる。青春時代の熱い風が吹く。

## 機関車先生 原作 伊集院 静

<あらすじ> 瀬戸内海の小島「葉名島」<sup>はなじま</sup>にある全校生徒7人の水見色小学<sup>みずみいろ</sup>校。春風とともに、大きな体の優しそうな眼をした青年が臨時教員としてやってきた。ところが彼は、子供の時の病気が原因で話をする事ができない。



「口をきかん先生か……」  
たなかみほこ  
 すると隆司と同じように今年学校へ入ってきた田中美保子が教室のうしろの壁をさし突然大声で、「キカンシャセンセイ」と叫んだ。「キカンシャセンセイ？」六人が一斉に声をそろえて美保子の指さした方を見た。そこには白煙を上げて疾走するD-51蒸気機関車の雄壮な写真が掛けてあった。「機関車先生か」「そうじゃの。身体もおおきいし、力持ちみたいじゃし、ぴったりじゃ。その通りじゃ。新しい先生は、機関車先生じゃ」  
 『機関車先生』講談社文庫／集英社文庫

数々の事件が起こるなかで子どもたちは心の交流を深め、自然の大切さや人間の優しさを学んでいく。しかし、突如訪れる別れの日……映画では「葉名島」に見立てられた志々島、粟島、本島、高見島、佐柳島が舞台になっています。

## ロード88 出会い路、四国へ 監督 中村 幻児

スケボーを走らせ、元気に四国88カ所をめぐる女子高校生、榎村明日香。だが、彼女は「骨髄性白血病」という病に冒されていた。お遍路の旅をやり遂げようとする彼女に心動かされる大人達。病と闘いながら自ら生きる道を切り開いていく姿を描く。

製作＝「ロード88」製作委員会  
 監督＝中村幻児 配給＝ギャガ・コミュニケーションズ



©2004「ロード88」製作委員会

他にも「風の舞」2003（平成15）年、「DOLLS」2002（平成14）年、「男はつらいよ寅次郎の縁談」1993（平成5）年、「釣りバカ日誌」1988（昭和63）年、「二十四の瞳」1986（昭和61）年など多くの作品があります。

